

平成10年度（1998年度）事業報告書

1998年度は長引く不況の影響を受け、企業メセナ協議会の運営も大きな試練に直面しました。企業の経営環境が一段と厳しさを増す状況下では、会員数の拡大による収入増は期待できないことから、事業の全面的な見直しを行って経費の節減に努めた結果、前年度に発生した繰越収支差額の赤字を解消し、財政面の正常化をはかることができました。

一方、1998年度における企業メセナ全体の状況を要約すれば、「一步前進、半歩後退の状態ながら不況の中で健闘した」と総括できます。当年度に協議会の「メセナ認定」を受けた芸術活動に対する支援企業の寄附金総額は約4億4千万円で、前年度の実績（約8億6千万円）の半分近くに減少したことになりますが、前年度には1件で3億円という異例の大口寄附があったことを勘案すると、実質的には「それほどの落ち込みは見せなかった」と言えます。

すなわち、寄附件数は前年度比90.6%の697件で、これは前々年度の実績（661件）を上回っており、また支援企業の所在地が全国に広がりつつあることなどから、厳しい経済環境の下でも企業による芸術文化支援活動が地道に行われたと考えられます。

さらに当年度は、とくに大都市圏における企業の文化施設の閉鎖ないしは事業縮小が相次ぎましたが、1998年9月には地方のメセナ組織による「全国メセナ・ネットワーク」が新たに発足し、地域メセナの運動が全国的な広がりに向けて一步前進したことも特筆されます。これらのことから戦後最悪と言われる経済の低迷にもかかわらず、企業メセナの重要性、必要性についての認識が広まり、可能な範囲で芸術文化の支援に取り組む企業が日本各地に存在していることがうかがえます。なお、当協議会と海外のメセナ組織との交流に関しては、1996年度から推進してきたアジアにおけるメセナ・ネットワーク設立の動きが経済情勢の悪化により、一時中断を余儀なくされましたが、情勢が好転次第、再開出来るよう関係諸国との情報交流に努めました。

I 事業の状況

1. 啓発普及事業（2, 187千円）

1.1 セミナー

実施日・場 所	テ ー マ	講 師	参加者
1998年 4月2日（木）・東京	ケーススタディ⑩ 「富士ゼロックスのメセナ活動」	○富士ゼロックス 伊藤道也氏	銀線 20名
5月21日（木） ・東京	シリーズ・21世紀のメセナ① 「メセナ活動への社員参加と 地域の連携を考える」	○日産自動車／島田京子氏 ○松下電器／石井 純氏 ○八文化欄／清水博純氏	46名
6月10日（水） ・東京	アートセミナー・フォローシリーズ 「古典芸能の新たな可能性を探る」	○観世栄夫氏（能楽師） ○児玉信氏（芸能評論家）	27名
6月16日（火） ・大阪	シリーズ・21世紀のメセナ② 「音楽支援を考える －事例と課題－」	○朝日放送／野口富生氏 ○アサヒビル／加藤種男氏 ○吉竹達雄氏（絵本プロデューサー）	46名
10月9日（金） ・千葉県佐倉	アートマネジメント・セミナー ギャラリートーク 「なぜ、これがアートなの？」	○アメリカ・アナレス氏 （美術教育研究家） 協力：川村記念美術館	銀線 12名
10月22日（木） ・宇都宮 ・福島県須賀川	アートフィールド研修 ・ファンタジーラトゥール展 ・現代グラフィックアートセンター	○宇都宮難産／北村淳子氏 ○大日本印刷CCGA ／木戸英行氏	銀線 14名
11月25日（水） ・東京	シリーズ・21世紀のメセナ③ 「メセナの基準と結果の評価」	○ソニー／榎川勝也氏 ○セゾ文化欄／片山正夫氏 ○アサヒビル／加藤種男氏	80名
1999年 3月26日（金） ・東京	アート環境シリーズ 「アートの公共性とは？」 －官民のパートナーシップと 寄付税制のゆくえ－	○早川知宏氏（文化庁） ○関水秀樹氏（蔵州市芸術文化振興局） ○津村 卓氏（地域創造） ○山野真吾氏（プロデューサー） ○アサヒビル／加藤種男氏	50名

1.2 中期構想（全国メセナ組織への支援）

9月10日（木）・11日（金）に佐賀県嬉野町において、各地のメセナ組織をはじめ文化庁や地方自治体、財団等の関係者（28団体・61名）の参加をえて、第3回全国メセナ組織会議が開催され、当協議会から根本専務理事、岡部修二氏（トヨタ自動車）、加藤種男氏（アサヒビール）が出席しました。

今回は「組織の活動とその課題」をテーマに熱心な討議が行われ、今後は「全国メセナ・ネットワーク」の名称のもとに、宮地良彦氏（松本芸術文化協会会長）を座長とし、新たな全国組織に発展させることが決まりました。

当協議会としては、地方の企業によるメセナ活動の普及、促進をはかるため、同組織の自主的運営体制が早期に確立されるように側面的に支援していきます。

2. 情報集配・仲介事業（20,979千円）

2.1 機関誌の発行

協議会機関誌『季刊メセナ』を次のとおり発行しました。 ※発行部数：各号3000部

①春号（1998年4月20日発行） 特集「子どもたちのアート環境」

②夏号（1998年7月20日発行） 特集「めざせ！アートマネージャー」

③秋号（1998年10月20日発行） 特集「不況に立ち向かうメセナ」

④冬号（1999年1月20日発行） 特集「知的所有権とメセナ」

なお、本誌は当年度をもってひとまず休刊とし、1999年度からニューズレター『メセナ・ノート』を新たに発行していくことにしました。

2.2 インターネット・ホームページ

当年度もホームページにおいて、協議会活動や企業メセナの状況に関する情報を紹介しました。（年間アクセス件数：2,146件）

3. 調査・研究事業（11,186千円）

3.1 『メセナ白書』の刊行

調査部会のメンバーのご協力をえて、『メセナ白書1998』を計画どおり10月22日にダイヤモンド社から刊行しました。（発行部数5000部）

□調査対象企業：2,498社、回答企業436社

□特集記事：「多様化する地域メセナ」

本書で紹介した1997年度の企業メセナは、不況の中で活動費は若干ながらも増加し、活動件数もさほど大きな落ち込みを見せず、専任部署は減少したものの、担当部署の発言力は強まり、メセナ費を予算化する企業がふえた、などが特色にあげられます。

すなわち厳しい環境の下で、企業のメセナに取り組む姿勢はより能動的になり、1997年度のメセナは、「逆風に果敢に立ち向かって健闘した」と要約できます。

なお、当年度は調査結果についてのパブリシティ活動を積極的に推進した結果、全国の新聞・雑誌媒体での報道が44件ありました。

4. 顕彰事業（10,835千円）

大賞部会のメンバーのご協力をえて、本年度も「メセナ大賞」の顕彰事業を実施しました。今回の応募は111団体・152件（前年度は151団体・203件）で、外部審査員による2回の審議を経て、各賞の受賞企業を次のとおり決定し、12月4日（金）、東京・有楽町朝日ホールで贈呈式を行いました。

- メセナ大賞 / 朝倉不動産株式会社 「代官山ヒルサイドテラスにおける文化活動」
- メセナ育成賞 / 大川創業株式会社 「関西フィルハーモニー管弦楽団への支援活動」
- メセナ企画賞 / 九州電力株式会社 「若手工芸家の国内外派遣制度」
- メセナ国際賞 / 株式会社ベネッセコーポレーション「直島文化村ベネッセハウスの運営」
- メセナ奨励賞 / 株式会社両国シティコア 「シアターXの運営」
- メセナ普及賞 / キリンビール株式会社 「キリンプラザ大阪の運営」

なお、今回の受賞企業について全国の新聞47紙のほかに、本年4月14日（水）にはNHKテレビの首都圏ニュース番組で紹介されました。

5. 国際交流事業（322千円）

1998年2月、東京で開かれたABCA（The Asian Business Council for the Arts）の設立作業委員会において、次回の委員会を10月にオーストラリア・メルボルンで開催することが予定されていましたが、アジア経済の不況が深刻化したため、急遽、経済情勢が回復するまで延期されることになりました。

なお、欧米諸国との交流に関しては、当協議会の福原理事長に対し、フランスのアドミカルから1999年5月開催の創立20周年記念国際大会への出席要請が寄せられました。

6. 助成事業（業務費4,784千円）

1998年度は、合計121件の申請があり、選考委員会により、うち111件が認定されました。（前年度は、申請121件、認定115件）

また、実際に寄付が行われた件数は697件、寄付金額は44,281万円、1件あたり金額は64万円でした。前年度は、それぞれ769件、86,555万円、113万円でしたが、当年度は厳しい経済情勢を反映して、いずれも前年度を下回りました。

7. メセナ・コーディネート事業（8,299千円）

本年度より開始したメセナ・コーディネート事業は、全国8カ所（東京、新潟、横浜、千葉、北九州、札幌、佐世保、高知）で開催されたトヨタ自動車主催「トヨタ・アートマネジメント講座」の企画運営に協力しました。

8. その他の活動

8.1 会議関係

○理事会（第25～27回）	3回	○大賞部会	7回
○通常総会（第17～18回）	2回	○助成選考委員会	6回
○幹事会	7回	○大賞審査会	2回
○調査部会	4回		

8.2 特別講演会

- ①1998年7月2日(木) 於：経団連会館
 テーマ：「NPOの新しい動きと企業メセナ」
 講師：日本NPOセンター常務理事・山岡義典氏
 対象：総会参加者約50名
- ②1999年3月31日 於：経団連会館
 テーマ：「代官山ヒルサイドテラスにおける文化活動」
 講師：朝倉不動産株式会社打緒表取締役 朝倉徳道氏
 建築家 楨文彦氏
 対象：総会参加者約50名

8.3 講演、執筆依頼等への対応

依頼元	依頼内容		対応者
文化経済学会	執筆	季刊『文化経済学会』 No.24 (5/15発行)	根本専務理事
桐朋学園大学	講義	6月19日(金) 音楽学部学生対象	〃
大宮市	講演	7月30日(木) 市職員対象	〃
横浜市教育委員会	講義	10月～12月(10回) 市民対象講座	〃
産労総合研究所	執筆	機関誌「企業福祉」1月号	〃
文化庁	執筆	文化庁月報3月号	〃
文化経済学会	出演	6月12日(金) 山口大会シンポジウム	熊倉純子
(財)地域創造	講義	9月30日(水) アドバイザリー会議	〃
鹿児島県加世田市	出演	10月12日(月) シンポジウム	〃
宮城県文化振興財団	出演	11月27日(金) シンポジウム	〃
茨城県	出席	12月25日(金) 懇談会	〃
サントリー文化財団	執筆	機関誌「地域文化ニュース」第18号	大西知美

8.4 ミニ広報紙の発行

会員企業と協議会事務局とのコミュニケーション強化の一環として、ファクシミリによるミニ広報紙『メセナ通信』(月刊)を1998年6月～1999年3月に発行しました。なお、1999年度からは本紙を新情報紙『メセナ・ノート』に統合することにしました。

II 処務の概要

1. 職員に関する事項

平成10年度末現在

職 務	氏 名	就任年月日	担当業務	手当(月額)	備 考
事務局長	角山 紘一	1998. 2. 1	全般管理	—	(会員企業より出向)
事務局次長	林 牧人	1998. 11. 16	事業	—	(会員企業より出向)
主幹	岩瀬 慶孝	1994. 4. 1	事業	110 千円	
事務局次長	高井 光子	1990. 2. 14	総務	502	
部長	熊倉 純子	1993. 4. 1	事業	332	
主任	久保田大介	1992. 4. 1	事業	273	
主任	武田 直樹	1995. 12. 21	事業	244	
	大西 知美	1998. 11. 1	事業	223	
	若林 朋子	1999. 3. 1	事業	216	

2. 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議結果
1998. 7. 2 (第25回)	1. 新会員承認の件 2. 1997年度事業並びに収支決算報告の件 3. 協議会設立10周年記念事業計画概要の件	可決 可決 保留
1998. 12. 10 (第26回)	1. 役員人事の件	可決
1999. 3. 31 (第27回)	1. 新会員承認の件 2. 理事選任の件 3. 1999年度事業計画並びに収支予算案の件	可決 可決 可決

(2) 総会

開催年月日	議 事 事 項	会議結果
1998. 7. 2	1. 1997年度事業並びに収支決算報告の件	可決
1998. 3. 26	1. 理事選任の件 2. 1999年度事業計画並びに収支予算案の件	可決 可決

3. 許可、認可および承認に関する事項

該当なし

4. 契約に関する事項

該当なし

5. 寄付に関する事項

寄付の目的	寄付者	申込金額	領収金額	備考
企業メセナ協議会 認定事業への助成	697 団体・個人	442810 千円	442810 千円	全額を認定事 業へ寄付
事業活動の支援	(株)資生堂	1000千円	1000千円	

6. 主務官庁指示に関する事項

該当なし

7. その他重要事項

該当なし